

平成22年度 静岡精華幼稚園評価書

2011.3.1

A そう思う B 大体そう思う C あまりそう思わない D そう思わない

精華幼稚園教育目標 ひとり立ちする子		自己評価	学校関係者評価委員会から		
			評価	意見	
三つの重点	1 経験・体験の幅の拡大	【教師の営み】 精華幼稚園は、子どもたちの遊びを広げ深めるために、種々の面で子どもたちの経験・体験の幅を広げさせようと試みている。	A	A	・子どもに対する教師の飽くなき願いが伺える。 ・子どもの遊びに対する意欲の度合を評価の観点にすると、教師の営みもより具体化し、子どもの遊びも一層活発になる。
		【子どもの状況】 子どもたちの遊びは、期待したとおりの広がりや深まりを見せてきている。	A	A	
	2 人間関係調整力の伸長	【教師の営み】 精華幼稚園は、子どもたちが人とふれあう機会を積極的に設定しようとしている。	A	A	・園児たちは、来園した人たち誰にでも臆することなく自然体で接する。転入園児たちもいち早く園に溶け込める。 ・外で会ったときも人懐っこさを感じる。
		【子どもの状況】 子どもたちは、臆することなく人とふれあうことができるようになってきている。	A	A	
	3 聞く態度・聞き取る力の育成	【教師の営み】 精華幼稚園の教師は、意識して子どもたちに話を聞き取らせる工夫と努力を続けている。	A	A	・教師にめりはり感がある。 ・教師たちがしゃがんで子どもの話に耳を傾けている姿をよく見かける。教師がよく聞いてあげるから、子どももよく聞くようになるのだろう。
		【子どもの状況】 子どもたちの話を聞こうとする姿勢は着実に育ってきている。	A	A	

教育目標具現に向けて育てたい八つの子ども像	1 自由遊びができる子に	【教師の営み】 精華幼稚園の教師は、子どもが自分で遊べるよう積極的に子どもたちの中に飛び込み、子どもたちに遊びを促す。	A	A	・天気のよい日の園庭は、子どもであふれ返っている。 ・子どもたちの中に、たくさんの教師の姿が見える。教師も子どもも遊びが大好きようだ。雰囲気がいへんよい。
		【子どもの状況】 自由遊びの時間、子どもたちはそれぞれに遊びを楽しんでいる。	A	A	
	2 集団遊びができる子に	【教師の営み】 精華幼稚園の教師は、率先して子どもたちの遊びの輪の中に入り、遊びを盛り上げたり遊びの広がりやを促したりする。	A	A	・「花いちもんめ」「だるまさんがころんだ」「リレー」など、子どもたちの輪の中にはいつも教師の姿がある。 ・教師の作る砂場の山に、子どもたちが群がっている。
		【子どもの状況】 子どもたちは外遊びを好み、友達と一緒に群れて遊んでいる。	A	A	
	3 園行事に楽しく参加する子に	【教師の営み】 精華幼稚園の教師は、「主役は子ども」という姿勢で、行事に子どもの思いを反映させている。	A	A	・教師が率先して楽しみ、面白そう、楽しそうという空気を生み出している。 ・子どもたちは、クラスまとまってよりよいものをつくりようとしている。
		【子どもの状況】 子どもたちは、一つ一つの園行事を心から楽しんで受けとめている。	A	A	
	4 自分のことは自分でやれる子に	【教師の営み】 精華幼稚園の教師は、子どもたちが自分でできる可能性の限界を見極めながら、自分の手でできるようになるまで根気強く寄り添おうとする。	A	A	・着替えや片付けなど、子どもの脇で子どもがなし終えるのを根気強く待つ教師の姿をよく目にする。 ・年長児が年少児を手伝いに行く。態度も含め子どもたちは集団の中で学んでいる。
		【子どもの状況】 子どもたちは、着替えや片付けなど自分一人でやり抜こうとする。	A	A	
5 美しくあいさつできる子に	【教師の営み】 精華幼稚園の教師は、朝と帰り、心を込めて声をかけ、子どもたちに挨拶の響きの心地よさを知らせながら挨拶のこだま返しを誘っている。	A	A	・朝、先生たちの声がよく響いている。 ・精華の子は卒園してからも挨拶がよくできる。学校の交通当番のとき、こちらより先に子どもの方から声を掛けられた。	
	【子どもの状況】 子どもたちからの「おはよう」「さようなら」の返りが増えてきている。	A	A		
6 美しくお話しできる子に	【教師の営み】 精華幼稚園の教師は、言葉を大切にしながら子どもの立場に立って分かりやすく話し、子どもの言葉をゆったりと受けとめて、思いをしっかりと受けとめる。	A	A	・言われてみれば先生たちの言葉はきれいだ。乱暴な言葉や流行の言葉遣いがない。言葉を大事にしていると感じる。 ・うなずきながら子どもの話をゆっくり聞いている教師の姿を時々見かける。	
	【子どもの状況】 子どもたちは安心して「先生、あのね、」と話し出す。	A	A		
7 好奇心や探究心を抱く子に	【教師の営み】 精華幼稚園の教師は、社会事象や自然事象への遭遇（経験・体験）の広がりやを求めて、積極的に園外保育に出かける。	A	A	・駿府公園でほんとにたくさんの精華の子どもたちを見かける。土手を歩くだけで、限りなく自然と出会う。 ・園外保育の道中がすべて社会体験というらえ方に賛同する。	
	【子どもの状況】 子どもたちの社会や自然に対する認識の広がりや、確かな歩みを見せている。	A	A		
8 話を聞くときはきちんと話を聞ける子に	【教師の営み】 精華幼稚園の教師は、伝えようとするときは、子どもの一人一人の心に語りかけるように真剣に話している。	A	A	・先生たちがめりはりを意識している。ここというときに聞ける子になっている。 ・毎日の学級経営の中で、集中力育成ポイントを設定しておく、育成もチェックもしやすい。	
	【子どもの状況】 子どもたちは、教師の話を中心して聞くことができるようになってきている。	A	A		

【学校関係者評価委員会】 保護者 2名 PTA役員（会長・副会長） 2名 後援会役員 2名 園カウンセラー 1名
園医 1名 地域住民（町内会長・商店経営） 2名 学識経験者 2名